

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	J R 常磐線混雑緩和要請事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	都市計画課				
施策	1-8	利便性と快適性を重視した公共交通機関の整備充実	主管課長	長橋 祐之				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	J R 常磐線の利用者	意図	輸送力の増強及び利便性の向上を図ることにより鉄道の混雑緩和を促進する。
事業内容	千葉県並びに松戸市、野田市、柏市及び我孫子市と連携を図り、快速列車の増発などの輸送力増強に関する要望活動を J R 東日本に対して実施する。			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年3月のダイヤ改正により、常磐線（各駅停車）のデータイム増発（12分間隔⇒10分間隔）に伴う武蔵野線との接続利便性の向上が図られた。 平成27年3月の上野・東京ライン開業により、常磐線沿線から、東京駅、新橋駅及び品川駅まで直通で行けるようになったが、東海道線との相互直通運転は未だ図られていない。 			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	便利だと感じている駅利用者の割合	66	65.90	68.90	%	↑↑↑	まちづくり達成度アンケート
②	ラッシュ時における混雑率	161	160	157	%	↓↓↓	県ホームページ公表	
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） J R 東日本に対しダイヤ改正に係る要望書を提出。 路線別重点要望 ・1日当たりの利用者数が10万人以上の駅については、ホームドア整備計画の策定を要望 ・上野東京ラインへの乗り入れ本数は維持することを前提に、快速列車の復元を要望 ダイヤ改正要望 ・快速列車の新松戸駅への停車	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		68,650	67,120	65,920				
事業費(b)(円)								
うち一般財源								
職員給与と費(c)(円)		68,650	67,120	65,920				
人役・職員(人)		0.01	0.01	0.01				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	D 国・県・広域自治体で担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	J R 常磐線の利用者の利便性、快適性の向上を図るため輸送改善並びに鉄道施設整備を促進する。	③取組における課題(Check)	J R 東日本は、利用人員や快速列車の速達性、費用対効果の面からも、増発及び大規模な改修を伴う要望について慎重な姿勢である。
②H30に実施した取組(Do)	J R 東日本に対する要望活動の実施	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	引き続き沿線自治体と共同して、J R 東日本に対し要望活動を行っていく。